

自蹊庵便り

平成三十年文月

NO 132

七十五歳 茶事屋の夢

私の唯一の道楽に富士山の伏流水湧き出
ずる山中に、小さな水汲み小屋があります。
折々の便りの中にも断片的に登場してい
かと思いますが、このところ足繁く通つて
おります。と、申しましても段取りと片付
の繰り返しの日々なれば二、三ヶ月に一度
足を運ぶ程度なのですが…。

の山中の紅葉を楽しんだことのないことに
気づき、吾が事を寂しむばかりにございま
す。足下を見れば御馳走にしたき菓草の宝
庫、山の恵みに感謝し、ゆえに旨し水の恵
に頭を垂れながらの出仕事屋であつたはず
ですのに…。

処があるとすれば、それは動物的嗅覚によ
る危機感だけなのですから…。
春にはこの桜の許で櫻花の茶事に一献を
傾けては如何ですか、京都の紅葉も見事だ
しょうが、山中の紅葉の中での一服も良い
ものですよ…と、そつと語りかけてくれる、

多忙な時ほど忙中閑を欲するように身体
の生理はできているようです。寝袋で寝る
ほどの単なる水汲み小屋ですが、二十年の
歳月を経て山小屋の入口には、植えた記憶
のない山桜が大樹となり、あゝ、この桜の
花の咲く時期に一度も来たことがないこと
に愕然とし、また、一本だけは意識的に斜
めに傾けて植えておいた楓の苗木も見事な
大樹となり、丁度釣り釜によい枝振りに育
つております。あゝ、紅葉の時期も京都、
松江とあちらこちら奔走して一度もこ

テレビ放映以後二年が経ちました。多く
の皆様からのエールを賜り、戸惑いながら
も、錯覚することなく水と火と土の世界か
ら離れず、技量不足を晒しに晒して仕事を
してきたつもりでおりますが、この水汲み
小屋の語りくれる、静寂にして饒舌と申し
ましょうか、とにかく圧倒され、打ちのめ
される思いでおります。

この懐の深い山々の恵み、そう…、一人で
も多くの方々にこの旨し水を汲みて湯を沸
かし、茶を点てることで何かが見えてくる
かもしれない…と、二十年前に心揺さぶら
れる思いで小屋を作つたはずなのに…。
やまふところ
山 懐 はかくも深く寛大で老いに入り
ゆく私を包み迎えてくれます。

森に居ながら木を見ずとは、よく耳にす
る言葉にございますが、まさに只今の自分
が、体の底から危険を感じたのでございま
しょう。

何しろ私がお人より僅かながらも秀でた

ペアーピン状の険しい山路を通うことがで
きることか…と、物事が調い始める兆しが
見え隠れする頃に残年ままならないのも世
の常なれば、悩むことすらもつたいたなく、
只々、今生かされていることが有難き日々

にございます。

山々は命の宝庫。命は食にありを実感させてくれる場所です。旨し水が醸し出す天然の味に憧れての原点に戻り、これからは山ごもりが多くなりそうです。

さて、先号での陰陽二気の続き、一度には書き尽くせないで、今回は続編として、まずは料理に身近な俎板についての蘊蓄です。

板前さんの世界に包丁式というのがございます。饗応儀式の一つです。身を清め装束をまとった料理人が、包丁と箸だけで鯉などを捌く儀式です。今日では四條流などにその伝統が継承されておりますが、室町時代から江戸時代にかけて貴人を持て成す饗応の一つとされていたものです。

この包丁式に使われる俎板についての寸法が中々面白いのです。長さ：横のことで、一年三六五日を意味し、三尺六寸五分に定められています。巾：左は一年十二ヶ月の陰陽と、右は一日二十四時間の昼夜を意味するところから二尺四寸と定めてあ

ります。もっと面白いのは厚さです。女性を意味しているようで、女性の厄年に合わせ三十三歳ということで厚みを三寸三分で表されており、足は、私達がよく云うゲタの部分ですが、これは男性を意味し、男性の厄年は四十二歳ですから、四寸二分となります。

上部の平面、まさに俎板の上の鯉の部分ですが、ここは人間生活に必須である用件を意味しているのだとか、そして、その平面の右肩は、人は朝日を浴び、目を覚ましたら先ず神仏祖先に礼拝します。そこから一日が始まるので右肩の名称は朝ちようはい拝と呼ばれています。

右下角は「五行」と名付けられ、木火土金水の恩恵を形に表し、執り行う意味しているそうですよ。木火土金水のどれ一つ欠けても人間の生活は成り立ちませんものね。

因みに左肩は「宴えんすい酔」と云って一つの瓶で醸せる酒を酌み交わし、和睦を表し、人々の幸せを喜び楽しむことにあるそうで

す。左下角は、「四徳しとく」と云います。人は全て智慧を伝え、仁義を尊び、勇気と愛情を供えなければならぬことを教えてあるのだそうですよ。人は全ての教えを行い司る場としての中央広場を「式」と名付けられています。

そして「朝拝」は青、「五行」は黄、「宴酔」を赤、「四徳」を白、中央「式」を黒で表されています。

千葉県の南房総市に料理の神様が奉られている高家神社たかべがあり、毎年三回（五月、十月、十一月）包丁式も行われ、馴染み深いものですが、これだけの意味があつた俎板一つにも込められていることを思いますと、陰陽と木火土金水なくては語れないもの、まだまだ多く秘められているようですね。遅まきながら一つずつ勉強です。

―間に合わせぬこと 多かりし残生を
悔やまずに聴く先人の声―

鶴女

茶事教室の御案内

東金教室

文月の茶事 夕ざり（七夕）

七月八日（第二日曜）

七月九日（第二月曜）

七月十日（第二火曜）

席入 午後四時半

点前担当・水屋実習者

午後一時

※大網駅お迎え十二時半

午前中より自由参加可能です。

会費 一万一千円（レギュラー者）

会費 一万二千元（半レギュラー者）

会費 一万三千元（単発者）

※今年朝茶はございません。

来年七月に朝茶を予定します。

朝茶と夕ざりを各年で行います。

※八月は東金教室はお休みです。

京都教室

七月一日（日） 風炉灰作り

七月二日（月） 朝茶準備 盆石

午後七時半 講演

七月三日（火） 朝茶 席入午前六時

七月四日（水） 朝茶 席入午前六時

七月五日（木） 残り福点心にて

優食会

七月六日（金） 講演

神戸NHK文化センター

午後一時半

湯河原教室

七月、八月共に開催予定

第三日曜日、月曜日

利休会記を読み解く会

六月より門前仲町に会場が移りました。七月、八月共に

第四日曜日午前九時始まりです。

お間違いの無きように御参加ください。

※八月一日（水）～五日（日）

まで道志の水汲み小屋におります。御自由に御参加ください。

宿泊者は一万円会費、日帰りの方は五千円となります。

連泊の方は、食費込みの追加会費として、一日三千円申し受けます。

携帯090 9001 1134
までお申し込みください。

当日受付可能です。ファクス受付はありません。